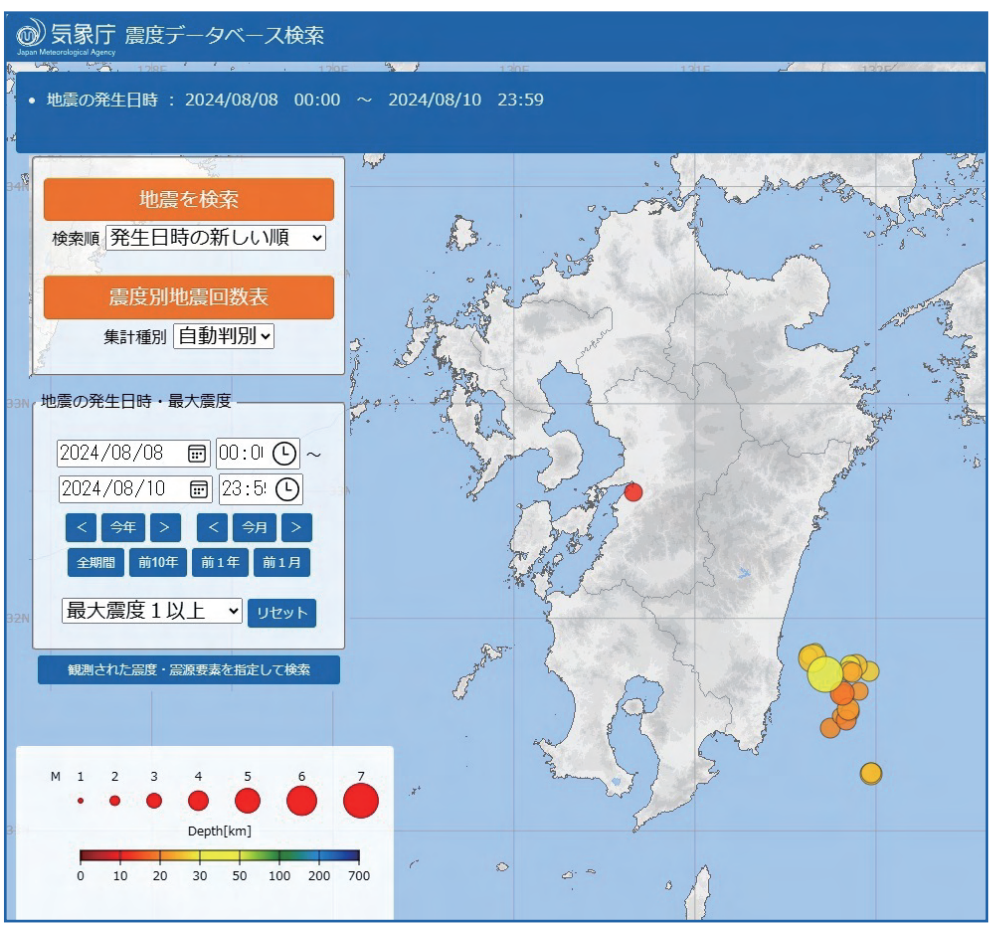
# 日向灘でマグニチュード 7.1 の地震発生
# 南海トラフ地震臨時情報「巨大地震注意」を発表




8月8日16時43分頃、宮崎県日向灘を震源とする最大震度6弱の地震（マグニチュード7.1）が発生しました。気象庁は、これに伴い「南海トラフ地震臨時情報（調査中）」を初めて発表しました。

「南海トラフ地震臨時情報」は2017年から運用されたもので、南海トラフ沿いでマグニチュード 6.8以上の地震等の異常な現象が観測された場合や、地震発生の可能性が相対的に高まっていると評価された場合等に気象庁が発表するものです。「南海トラフ地震臨時情報**（調査中）**」として発表後、専門家による「南海トラフ沿いの地震に関する評価検討会」の臨時会合が開催され、様々な角度から検討を加え、検討結果に基づき「**巨大地震警戒**」「**巨大地震注意**」「**調査終了**」の判断をキーワードとして発表します。今回は「南海トラフ地震臨時情報（**巨大地震注意**）」の結論になりました。

今回の日向灘地震発生から1週間経った時点では、震度1の地震が16回、震度2が5回、震度3が2回観測されていますが、プレート境界の変化は観測されていません。今回初めて発表された「南海トラフ地震臨時情報」について、内閣府ホームページの防災情報では下図のようにまとめています。

| 南海トラフ地震臨時情報 | | 発表条件 |
|---|---|---|
| | | ■ 南海トラフ沿いで異常な現象が観測され、その現象が南海トラフ沿いの大規模な地震と関連するかどうか調査を開始した場合、または調査を継続している場合<br>■ 観測された異常な現象の調査結果を発表する場合 |
| キーワード | 調査中 | ■ 観測された異常な現象が南海トラフ沿いの大規模な地震と関連するかどうか調査を開始した場合、または調査を継続している場合 |
| | 巨大地震警戒 | ■ 南海トラフ沿いの想定震源域内のプレート境界において M8.0 以上の地震が発生したと評価した場合 |
| | 巨大地震注意 | ■ 南海トラフ地震の想定震源域内のプレート境界において M7.0 以上、M8.0 未満の地震が発生したと評価した場合<br>■ 想定震源域のプレート境界以外や、想定震源域の海溝軸外側 50km 程度までの範囲で M7.0 以上の地震が発生したと評価した場合<br>■ ひずみ計等で有意な変化として捉えられる、短い期間にプレート境界の固着状態が明らかに変化しているような通常とは異なるゆっくりすべりが観測された場合 |
| | 調査終了 | ■ 巨大地震警戒、巨大地震注意のいずれにも当てはまらない現象と評価した場合 |

今回の検討会では、震源が南海トラフの想定震源域内であったこと、そして地震規模がマグニチュード 7.1 と判断されたため、「巨大地震注意」の発表となったわけです。

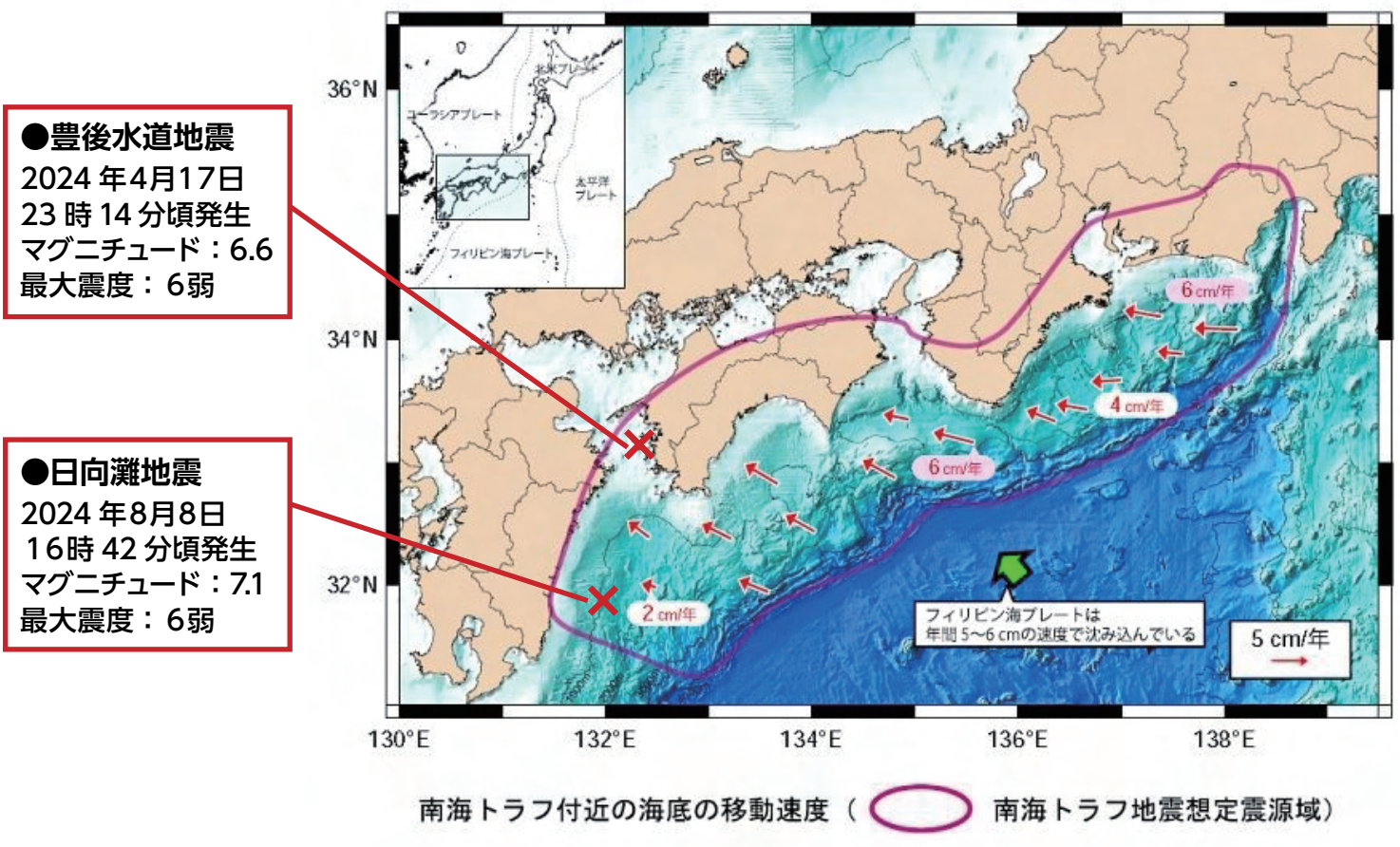
また、内閣府では臨時情報が出たときにどのような行動をとったらよいかを下図のように示しています。重要なポイントは南海トラフ地震臨時情報が発表され、調査結果が「調査終了」となった場合には、地震の発生に注意しながら通常の生活を送っても構いませんが、**大規模地震発生の可能性がなくなったわけではないことに留意しておくこと**です。「巨大地震警戒」の場合には発生後2週間、「巨大地震注意」の場合には1週間は、いつでも避難できるように準備し、その後は「調査終了」の場合と同様に、地震発生の可能性を念頭に置きつつ日常生活を送りましょう。

| 地震発生から最短2時間後 | 南海トラフ地震臨時情報（巨大地震警戒） | 南海トラフ地震臨時情報（巨大地震注意） | 南海トラフ地震臨時情報（調査終了） |
|---|---|---|---|
| （最短）2時間程度 | • **日頃からの地震への備え**の再確認に加え、地震が発生したらすぐに避難するための準備<br>• 地震発生後の避難では間に合わない可能性のある住民は**事前避難**<br> <br> | • **日頃からの地震への備え**の再確認に加え、地震が発生したらすぐに避難するための準備<br> <br> | • 大規模地震発生の可能性がなくなったわけではないことに留意しつつ、地震の発生に注意しながら通常の生活を行う。<br> <br> |
| 1週間（※） | • **日頃からの地震への備え**の再確認に加え、地震が発生したらすぐに避難するための準備 | • 大規模地震発生の可能性がなくなったわけではないことに留意しつつ、地震の発生に注意しながら通常の生活を行う。<br> <br> | |
| 2週間 | • 大規模地震発生の可能性がなくなったわけではないことに留意しつつ、地震の発生に注意しながら通常の生活を行う。 | | |

# 太平洋プレートとフィリピン海プレートの境界付近で起きている地震は継続観測が必要

南海トラフ地震臨時情報が話題になったのは、今年の4月17日に九州と四国の間の豊後水道で発生した最大震度6弱の地震の時でした。今回の日向灘地震と同じ震度6弱の最大震度でしたが、マグニチュードが 6.6 と、7.0 の基準に満たなかったので臨時情報の発表とはなりませんでした。この二つの地震の震源、規模、最大震度を下図のようにまとめましたが、二つとも南海トラフ地震想定震源域の西端で発生しています。フィリピン海プレートがユーラシアプレートに沈み込んでいるあたりに、変化が起きていることは間違いありません。警戒意識を高めておいたほうが賢明でしょう。

**■南海トラフ地震想定震源域で相次ぐ地震**




＊海上保安庁の海底地形図に情報を付加して作成